

ともに新聞



新聞作成メンバー紹介



☆鞆の浦のつながりがさらに強いものになるような新聞にしたい！

☆読んだ人が、ほっこりするような新聞にしたい！

第2号

□二〇二三年(令和四年)八月
□鞆の浦学園 学園会

「絆」リレー NO2

山川文音さんから
バトンが渡りました。



鞆町にある地藏院と福禅寺対潮楼の住職である山川龍舟さん。群馬県出身で、三十二歳の時に初めて鞆を訪れたそうです。その時に目に映った夕日に染まる海、そして、そこにライトアップされた弁天島が忘れられないということなんです。四十年近く住み続ける中で、山川さんにとってこの絶景の数々が鞆の魅力となっています。住職という仕事についてうかがうと、感謝の気持ちで人と人とが繋がっていきけるこの仕事を誇りに思っています。と話されました。

お話の中で、仕事をやめたいと思ったことは一度もないと聞き、そう思える仕事に出会えることは素晴らしいと思います。私も感謝することを大切にできる大人になりたいです。

(八年 志田菜渚花)
(八年 松木 美里)



ありがとうを伝えたい NO2



お孫さんの登校の見守りがきっかけで、十年以上も鞆小学校・鞆の浦学園の児童生徒の朝の登校を見守ってくださっている茶谷仁さん。特に、子ども達が交通量の多い県道を渡る時に細心の注意を払ってくださっています。

茶谷さんが大切にされているのは、この魅力あふれる鞆の町だそうなんです。住民たちが協力して地域の魅力を発信していくところも鞆のすごいところだそうなんです。伝統を守り、子ども達が安心して暮らせるように、『鞆の盆踊り唄』をまとめた冊子もたくさんの方の力で作り上げられました。今後、実際に歌ったり演奏したりしたものを録音してDVDにされるそうです。

雨の日も風の日も、暑い日も寒い日も、毎日ぼく達の安全を見守ってくださっていて、とても感謝しています。

お話をうかがう中で、子ども達は宝だと言ってくれたことが心に残りました。

郷土愛にあふれ、アイヤ節などの伝統を後世に伝えるために頑張っておられることが分かり、つないでいくためにぼくに何が出来るかと考えるきっかけになりました。

(六年 和田 葉澄輝)



学園会

絵の好きな児童生徒が描きました！

鞆の景色

(九年 西 菜々子)

